

B C Pレベル2に引き下げ

基本的行動はレベル3と変わらず



本学は5月16日以降レベル3となっていた行動指針(B C P)を、21日からレベル2に引き下げた。これに伴い、ウェブを利用した活動を除いて全面禁止とされていた課外活動は、屋内の活動が事前許可制で再開された。また授業については原則オンラインでの実施から「三密を回避し十分な感染防止対策が講じられている」と部局長が判断するものについて、対面で実施可能となった。

今回改訂された「北海道大学の行動指針レベル2における基本的行動及び各行動の運用・詳細(本学ウェブサイト)に掲載によると、授業・研究活動・課外活動については5月15日までのレベル2の内容から変更された点はなかった。一方で基本的行動に関してはレベル3の内容を維持した。

本学は引き下げにあたって、北海道の緊急事態宣言が20日に解除されたものの札幌市内に緊急事態宣言が出されたことに伴い、本学は5月16日からBCPを、それまでのレベル2からレベル3に引き上げた。

行動指針	5/16~6/20 レベル3:制限(大)	6/21~ レベル2:制限(中)
基本的行動	・同居人以上との飲食は控える ・感染防止が徹底されていない飲食店等の利用を控える ・不要不急の外出、都道府県間の移動を控える ・緊急事態宣言下の地域との不要不急の往來は厳に控える	・同居人以上との飲食は控える ・感染防止が徹底されていない飲食店等の利用を控える ・不要不急の外出、都道府県間の移動を控える ・緊急事態宣言下の地域との不要不急の往來は厳に控える
授業	・実験などを除き原則オンラインで実施	・対策が十分とされる場合は対面で実施可能
課外活動	・屋内外の団体練習可能(許可制) ・大会や練習試合、遠征は事前の許可の下活動可能 ・合宿は禁止	・屋内外の団体練習可能(許可制) ・大会や練習試合、遠征は事前の許可の下活動可能 ・合宿は禁止
研究活動	・感染拡大に最大限配慮 ・研究室等での研究活動は最低限の滞在時間となるような計画に ・学外の実習等は「基本的行動」に留意	・感染拡大に最大限配慮 ・研究室等での研究活動は最低限の滞在時間となるような計画に ・学外の実習等は「基本的行動」に留意

※上記の内容は変更に関する部分を中心に抜粋したものです

各行動の運用・詳細の変遷

緊急事態宣言下の北大では

道内に緊急事態宣言が出されたことに伴い、本学は5月16日からBCPを、それまでのレベル2からレベル3に引き上げた。

課外活動制限緩和も 自粛要請残る

札幌市まん延防止受け

本学は21日に行動指針(B C P)をレベル2に引き下げ、ウェブ上での活動を除き全面禁止としていた課外活動について制限を緩和し、許可を与えた団体に屋内外での団体練習を認めた。一方で札幌市がまん延防止等重点措置の対象となっていることを受け、大会参加などを除いて広く課外活動の自粛を要請した。

課外活動について21日に改訂された北海道大学の行動指針レベル2における基本的行動及び各行動の運用・詳細によると、事前に許可を受けた団体について屋内外での活動を認めた。大会や練習試合、市外・道外への遠征

6月号
 <編集・発行>
北海道大学新聞
 編集部
 <URL>
 hokudashinbun.com
 (お問い合わせ・情報提供もこちらから)
 次の発行予定は8月

CONTENTS

- 五輪マラソンテスト大会開催 ……2面
- 北大生協 食料自販機稼働開始 ……2面
- 北大サークルラボ【第1回】 ……2面
- ニュースDIGEST ……2面

さらに道内の感染者数が下げ止まりしていた中で「新型コロナウイルスの拡大を阻止するため本学構成員が一致団結して取り組んでいくことが最も重要」と改めて訴えた。

5月27日には山口淳二理事・副学長が学生向けに動画を配信した。本学における具体的な感染事例を解説した上で「一部の学生による軽率な行為で感染が拡大しているケースが多い」と指摘会話をしている。2日以上のスクを着用すること、2人以上の距離で15分以上話さないことを求めると共に、複数人で食事をとる行為は感染リスクが高いと理解するよう呼び掛けた。

えるむ歌壇

【第一回】

実桜にとどいた子から夏になる 魔法はなくてもプリキュアなんだ
 新しいフラペチーノが出ることに君は大人になってくんだね
 そのままの姿で露光するように喪服の子供が傘を広げる
 青々と夏が来たりて銀沙灘 月にも夏は来るのでしょうか
 どくだみが集まって咲くひだまりで螺旋階段の螺旋は止まる

／朝風布衣
 ／西希
 ／小田島了

提供：北海道大学短歌会

「はやぶさ2」のサンプル到着

理学研究院・坂本教授ら分析へ

小惑星探査機「はやぶさ2」が「リュウグウ」で採取したサンプルが6月21日、到着した。理学研究院の坂本尚義(ゆりもと・ひさよし)教授の研究グループによって約1年間、化学分析が行われる。

今回ははやぶさ2が探索したリュウグウは主に地球と火星の間を公転している(図を参照)小惑星で、太陽系ができた当初の物質などが残っていると考えられる。坂本教授によると、リュウグウの地表サンプルを調べることによって太陽系初期にできた鉱物の種類がわかり、太陽系形成初



リュウグウ(Ryugu)の公転軌道 (JAXA提供)



リュウグウのサンプルの一部(JAXA提供)

北大の「今」を発信中!

ウェブサイト (THE MAINSTREET) Twitter (@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET
 Powered by 北海道大学新聞編集部

東京五輪マラソンテスト大会開催

国内外の選手らが北大構内を疾走

今夏に札幌で開催される東京オリンピックのマラソン競技のテスト大会「北海道・札幌マラソンフェスティバル2021」(実行委員会主催)が5月5日、札幌市内で行われた。東京五輪の代表選手をはじめ90人あまりの選手らが本学構内を含むコースを駆け抜けた。

テスト大会の競技はハーフマラソンと10キロ競走で構成され、選手らは五輪本番のマラソン競技で実際に使用されるコースを走った。このうちハーフマラソンは本大会と同じく大通公園をスタートし、今回は中間地点がフィニッシュ。本学構内では北キャンパスからメインストリートを経て南門に至るおよそ2キロの区間が

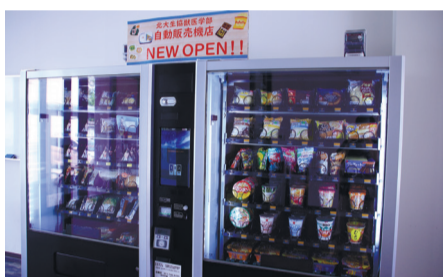
5月5日、本学構内のメインストリート周辺には多くのスタッフが配置され、車両の通行や歩行者の横断などが規制された。沿道での観戦は自粛が呼びかけられ、観客の出入は限定的だった。東京五輪・パラリンピック競技大会組織委員会によ

ると、今回のテスト大会の開催が決まったのは2020年12月。五輪本番と同じコースを使用して実際に競技を行うことで、全体のオペレーションに加え、選手への給水などの競技の運営、交通規制に伴う警備や警察との連携を確認することなどが



構内を走る選手ら(5月5日、獣医学部前)

北大生協は5月14日に閉店した獣医学部店の代替として、食料などを販売できる自動販売機を3日新設した。設置場所は獣医学部店跡地のロビー。北大生協によると獣医学部店は2014年度以降赤字が続いており、今回の閉店によって人件費や物件費など年間700万円程度の経費削減を見込む。今回新設された自動販売機ではおにぎりやサンドイッチのほか、お菓子やカップ麺なども販売されている。北大生協の鏡秀隆常務理事は「自動販売機設置によって24時間利用できる環境を整えることが出来た。」



新たに設置された自動販売機

北大生協 自販機で食料品など販売開始

獣医学部店跡地で3日から

北大新聞編集部 新メンバー募集中!!

気になった方はWebサイトをチェック!

北海道大学札幌キャンパスでは、様々な野鳥を見る事ができます。ある季節にのみ見られる渡り鳥が通ることもあれば、スズメのように一年中見られる野鳥もいます。今回はこの季節に北海道大学で見られる野鳥「コムクドリ」を紹介いたします。写真のコムクドリ(雄成鳥)は頭部から胸がクリーム白色で、肩羽や背は紫色の光沢がありとても色鮮やかな姿をしています。コムクドリはお馴染みのコムクドリの仲間です。例年4月の終わり頃に北大に飛来し、キャンパス内で繁殖します。生息環境は林であり、キャンパスでは木が連なっている



コムクドリ (北大野鳥研究会提供)

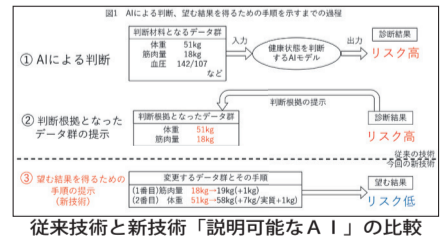


【第1回】北大野鳥研究会から

4/17 「説明可能なAI」世界初開発 北大・富士通研

本学は望む結果を得るために必要な手順を自動で提示できる技術「説明可能なAI」を世界で初めて開発したと2月4日発表。研究は本学情報科学情報知識ネットワーク研究室(IKN研究室)が株式会社富士通研究所(富士通研)と共同で行った。

近年ディープラーニング技術が進展し、AIによる複雑で高精度の予測・判断が可能となった一方、あ



従来技術と新技術「説明可能なAI」の比較

ど、外国人選手と一般市民との接触を避ける措置がとられた。外国人選手は入国前後に加え札幌への到着後もPCR検査を受けた。8月の本大会では女子マラソンが7日に、男子マラソンが8日にそれぞれ実施される予定。

構成員17人感染

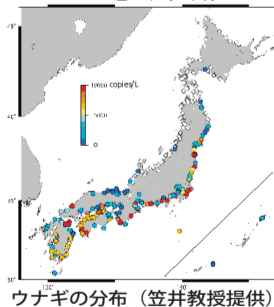
4・5月新型コロナウイルス

本学は4月と5月で、計17人の感染を発表した。内訳は、学生12人、職員2人、北大病院で看護師2人と事務補助員1人。

ニュースDIGEST

4/15 絶滅危惧種のニホンウナギ 分布域が明らかに

本学水産科学研究所の笠井亮秀(あきひで)教授(海洋環境学)らの研究グループは、新たな解析手法とシミュレーションを用いて、日本全国に生息しているニホンウナギの分布とその主要因を明らかにした。分布域については環境DNA解析という手法を用いることで、ニホンウナギが北海道にはほとんど生息せず、関東以西の本州太平洋側や瀬戸内海、そして九州西岸の河川で多く生息していることが分かった。



ウナギの分布 (笠井教授提供)

4/24 学生のメールアドレス流出 教科書販売で誤送信 北大生協

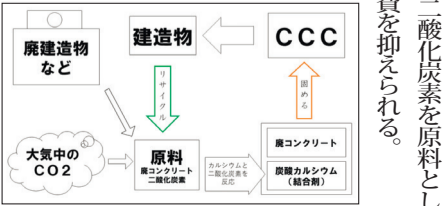
北大生協は、教科書の入荷連絡のメールを送信した際に、送信先全員分のメールアドレスが誤って受信者に表示される手違いが4月19日にあったと20日明らかにした。送信先のメールアドレスをBCC欄ではなく、誤ってTO欄に入力したことが原因。メールを受け取った学生からの指摘で事態が発覚し、北大生協はおよそ1時間後に該当者に謝罪するとともにメールアドレスの削除を依頼した。流出件数は510件だった。

5/4 完全にリサイクルできる コンクリートを世界初開発

本学や東京大学、清水建設などの研究グループは廃コンクリートや、二酸化炭素を原料とするコンクリート、カルシウムカーボネートコンクリート(CCC)の開発に世界で初めて成功したと4月19日発表した。このコンクリートは完全にリサイクル可能であり、環境問題の解決に貢献することが期待される。

CCCの最大の特徴は原料だ。従来のコンクリートは有限な石灰石を使用するが、CCCは一般的に産業廃棄物として処理される廃コンクリートと二酸化炭素を原料としているため資源の消費を抑えられる。

今回試作されたCCCは十円玉ほどの大きさで、強度も建築材として実用可能なレベルには至っていない。研究グループは2030年をめどに実用化を目指している。



CCCの製造方法